

長岡工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)	授業科目	プログラム研究特別セミナーⅡ
科目基礎情報					
科目番号	0022	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	専攻科専門共通科目	対象学年	専2		
開設期	通年	週時間数	1		
教科書/教材					
担当教員	村上 祐貴, 陽田 修				
到達目標					
<p>(科目コード: A0400 英語名: Special seminar of program study Ⅱ) (授業計画の週は回と読替えること)</p> <p>この科目は長岡高専の教育目標の(A)、(B)、(D)、(E)、(G)と主体的に関わる。c この科目の到達目標と、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。</p> <p>①学術・専門などが多様な構成員からなるチームの工程や行動を評価できる。評価の重み: 40%, 学習・教育到達目標との関連(B1)、(B2)、(E1)、(E2)、(E3) ②様々な情報をもとに課題の本質を明確化でき、提案された解決策を実行し、その効果を調査・検証することができる。評価の重み: 40%, 学習・教育到達目標との関連(E1)、(E2)、(E3) ③技術の発展と持続的社会のあり方から、自身を把握し、自らのありたい姿を考えることができる。評価の重み: 10%, 学習・教育到達目標との関連(A1)、(A2)、(A3)、(G2)、(G3) ④ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野での活用や発信の効果が評価できる。評価の重み: 10%, 学習・教育到達目標との関連(D2)、(D4)</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1	学術・専門などが多様な構成員からなるチームの工程や行動を詳細に評価できる。	学術・専門などが多様な構成員からなるチームの工程や行動を評価できる。	学術・専門などが多様な構成員からなるチームの工程や行動を概ね評価できる。	左記に達していない	
評価項目2	様々な情報をもとに課題の本質を明確化でき、提案された解決策を実行し、その効果を詳細に調査・検証することができる。	様々な情報をもとに課題の本質を明確化でき、提案された解決策を実行し、その効果を調査・検証することができる。	様々な情報をもとに課題の本質を明確化でき、提案された解決策を実行し、その効果を概ね調査・検証することができる。	左記に達していない	
評価項目3	技術の発展と持続的社会のあり方から、自身を把握し、自らのありたい姿を詳細に考えることができる。	技術の発展と持続的社会のあり方から、自身を把握し、自らのありたい姿を考えることができる。	技術の発展と持続的社会のあり方から、自身を把握し、自らのありたい姿を概ね考えることができる。	左記に達していない	
評価項目4	ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野での活用や発信の効果が詳細に評価できる。	ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野での活用や発信の効果が評価できる。	ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野での活用や発信の効果が概ね評価できる。	左記に達していない	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	プログラム学生は、主・副指導教員の指導の下、研究背景、研究目的、自らの研究の位置付けについて学び、プログラム学生1年およびプログラム学生2年生の研究活動に対して、適宜意見を行うことで、複雑な問題に対する解決策や手順の効果を評価する能力を身につける。また、取材活動を通して得られた企業が抱えている問題を課題化し、様々な専門的背景を有する集団を統括して、合意形成を図りながら具体的な解決策を絞り込むことができる能力を身につける。さらに地域企業が抱える課題に対する解決策を企業に提示し、企業側の要求に適合する成果物であるかどうか評価する能力を身につける。なお、企業が抱える課題解決は、地域企業に所属する実務技術者の指導を受けながら実務レベルの技術を学ぶとともに、組織のマネジメントについて実習をとおして学ぶものである。この科目は、2名の教員が複数教員担当方式(毎回の授業を複数の教員が同時に担当する科目)で行う。				
授業の進め方・方法	プログラム学生2年が専攻する専門領域に近い専門的技術を有する企業を対象として、歴史、技術分野などを十分に把握した上で、当該企業に所属する専門技術者に対する取材活動(JSCOOP)全般を統括し、プログラム学生2年の取材活動および成果物の指導・評価を計画的に行う。 この授業は学修単位科目のため、事前・事後学習として、「週ごとの到達目標」欄にある課題等を事前・事後に予習・復習することが必要です。				
注意点	自身の専門分野以外の様々な専門家からの意見、コメントに耳を傾け、課題に対するイノベティブな解決策を提案・検証できる技術者としての素地を身に付けてほしい。そのためには、授業だけでなく、新聞等のマスメディアから発信される情報に日頃から接することで社会のながれを把握し、自らのキャリアを継続的に考える習慣が重要である。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス	本科目の概要と到達目標を説明できる。	
		2週	課題解決プロジェクトプラン策定(組織・工程)	収集した情報を整理して主体的に研究計画を立て、的確に口頭発表できるように指導する者を評価する研究計画書指導マニュアルに関する課題1	
		3週	課題解決(問題把握・課題抽出・取材方針)	論理的な思考を基に、円滑なコミュニケーションを通して他者の意見を聞き研究計画を修正できるように指導する者を評価する 研究計画書指導マニュアルに関する課題2	
		4週	課題解決(問題把握・課題抽出・取材方針)	論理的な思考を基に、円滑なコミュニケーションを通して他者の意見を聞き研究計画を修正できるように指導する者を評価する 研究計画書指導マニュアルに関する課題3	

2ndQ	5週	課題解決（問題把握・課題抽出・取材方針）	論理的な思考を基に、円滑なコミュニケーションを通して他者の意見を聞き研究計画を修正できるように指導する者を評価する 研究計画書指導マニュアルに関する課題4		
	6週	課題解決（問題把握・課題抽出・取材方針）	研究計画指導について、指導している者を適切に評価する 研究計画書指導報告書に関する課題		
	7週	課題解決（問題把握・課題抽出・取材方針）	指導する立場からJSCOOPの取材方針をチームで決定するために、適切な情報収集、論理的な議論、合意形成ができる。 情報整理・分析に関する課題		
	8週	課題解決（問題把握・課題抽出・取材方針）	グループディスカッションで論理的な議論を展開でき、組織として解決策を導く計画を指導することができる。 チーム設計に関する課題		
	9週	課題解決（問題把握・課題抽出・取材方針）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、プラン及び策定者を適切に評価できる。 プロジェクトプラン報告資料に関する課題		
	10週	課題解決（JSCOOP企業取材）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、下級生が策定する作業計画についての的確に指導できる。 情報収集と分析、課題抽出に関する課題1		
	11週	課題解決（JSCOOP企業取材）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、下級生が策定する作業計画についての的確に指導できる。 情報収集と分析、課題抽出に関する課題2		
	12週	課題解決（JSCOOP企業取材）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、JSCOOPの取材で下級生が情報収集し整理して策定する解決策についての的確に指導できる。情報分析、課題抽出に関する課題1		
	13週	課題解決（JSCOOP取材振り返り・解決策検討）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、JSCOOPの取材で下級生が情報収集し整理して策定する解決策についての的確に指導できる。 情報分析、課題抽出に関する課題2		
	14週	課題解決（中間発表）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、組織として提案する解決策を他者が理解できるよう論理的に説明することができる。また、一連の活動を通して、企業活動と学習の関連性を理解し、自身のキャリア形成の一助とすることができる。 発表資料の作成と発表練習に関する課題		
	15週	課題解決（中間発表）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、組織として提案する解決策を他者が理解できるよう論理的に説明することができる。また、一連の活動を通して、企業活動と学習の関連性を理解し、自身のキャリア形成の一助とすることができる。発表資料の作成と発表練習に関する課題		
	16週				
	後期	3rdQ	1週	課題解決（問題把握・課題抽出・取材方針）指導経過をグループディスカッションでレビュー	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、指導プロセス及び指導者を適切に評価できる。レビュー記録の分析に関する課題
			2週	課題解決（課題解決策検討・検証）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、抽出した課題を工学的な考え方、手法に基づき、解決策の検証ができるよう指導することができる。課題解決PDCAに関する課題1
			3週	課題解決（課題解決策検討・検証）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、抽出した課題を工学的な考え方、手法に基づき、解決策の検証ができるよう指導することができる。課題解決PDCAに関する課題2
			4週	課題解決（課題解決策検討・検証）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、抽出した課題を工学的な考え方、手法に基づき、解決策の検証ができるよう指導することができる。課題解決PDCAに関する課題3
5週			課題解決（課題解決策検討・検証）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、抽出した課題を工学的な考え方、手法に基づき、解決策の検証ができるよう指導することができる。課題解決PDCAに関する課題4	
6週			課題解決（課題解決策検討・検証）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、抽出した課題を工学的な考え方、手法に基づき、解決策の検証ができるよう指導することができる。課題解決PDCAに関する課題5	
7週			課題解決（課題解決策検討・検証）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、抽出した課題を工学的な考え方、手法に基づき、解決策の検証ができるよう指導することができる。課題解決PDCAに関する課題6	
8週			課題解決（課題解決策検討・検証）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、抽出した課題を工学的な考え方、手法に基づき、解決策の検証ができるよう指導することができる。課題解決PDCAに関する課題7	
4thQ		9週	課題解決（課題解決策検討・検証）	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、抽出した課題を工学的な考え方、手法に基づき、解決策の検証ができるよう指導することができる。課題解決PDCAに関する課題8	

10週	課題解決 (課題解決策検討・検証)	グループのリーダーとして、グループディスカッションで論理的な議論を展開でき、下級生の研究がブラッシュアップできるよう指導することができる。研究指導に関する課題
11週	課題解決の指導経過を最終的にグループディスカッションでレビュー	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、指導プロセス及び指導者を適切に評価できる。マネジメントレビューに関する課題
12週	SDEPベーシックコース2年生課題解決の指導報告発表	課題解決の指導について、プロジェクトのリーダーという立場から、プロセスを振り返り、組織とマネジメントの結果を評価できる。また、下級生の指導を通じて自身の将来のありたい姿を思考できる。指導報告書の作成、報告に関する課題
13週	課題解決 成果発表	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、組織として提案する解決策を他者が理解できるように論理的に説明することができる。また、一連の活動を通じて、企業活動と学習の関連性を理解し、自身のキャリア形成の一助とすることができる。発表資料作成に関する課題1
14週	課題解決 成果発表	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、組織として提案する解決策を他者が理解できるように論理的に説明することができる。また、一連の活動を通じて、企業活動と学習の関連性を理解し、自身のキャリア形成の一助とすることができる。発表資料作成に関する課題2
15週	課題解決 成果発表	プロジェクトを総合的にマネジメントする立場から、組織として提案する解決策を他者が理解できるように論理的に説明することができる。また、一連の活動を通じて、企業活動と学習の関連性を理解し、自身のキャリア形成の一助とすることができる。発表資料作成に関する課題3、発表練習に関する課題
16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	4	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前14,前15,後13,後14,後15
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	4	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	4	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	4	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	4	前13,前14,前15,後13,後14,後15
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	4	前13,前14,前15,後13,後14,後15
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				合意形成のために会話を成立させることができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	4	前14,前15,後13,後14,後15
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	4	前14,前15,後13,後14,後15
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	4	前14,前15,後2,後13,後14,後15
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	4	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				複数の情報を整理・構造化できる。	4	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12

				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析のために効果的な図や表を用いることができる。	4	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,後13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	4	前14,前15,後13,後14,後15
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	4	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	4	前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	4	前14,前15,後13,後14,後15
態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。		4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

				自らの考えで責任を持つものごとに取り組むことができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				目標の実現に向けて計画ができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

			チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			法令やルールを遵守した行動をとれる。	4	前10,前11,前12

			他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	4	前10,前11,前12
			技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。	4	前10,前11,前12,前14,前15,後13,後14,後15
			自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	4	前10,前11,前12,前13
			その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状で必要な学習や活動を考えることができる。	4	前10,前11,前12,前13
			キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	4	前10,前11,前12,前13
			これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	4	前10,前11,前12,前13
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	4	前10,前11,前12,前13
			企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	4	前10,前11,前12,前13
			企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	4	前10,前11,前12,前13
			調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	4	前10,前11,前12,前13,前14,前15,後13,後14,後15
			高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でのどのように活用・応用されているかを認識できる。	4	前10,前11,前12,前13,前14,前15,後11,後12,後13,後14,後15
			企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	4	前10,前11,前12,前13,前14,前15,後11,後12,後13,後14,後15
			コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	4	前10,前11,前12,前13,前14,前15,後11,後12,後13,後14,後15
総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	総合的な学習経験と創造的思考力	工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前13,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
			課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前13,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12

				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければならないことを把握している。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前13,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12
				経済的、環境的、社会的、倫理的、健康と安全、製造可能性、持続可能性等に配慮して解決策を提案できる。	4	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前13,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	0	50	0	0	50	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	50	0	0	50	100